

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	0173700246		
法人名	有限会社グッドライフ		
事業所名	グループホームアウル		
所在地	〒052-0014 北海道伊達市舟岡町337-1 (電 話) 0142-21-1680		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年4月24日

【情報提供票より】（平成 21年1月6日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18 人	常勤 15人, 非常勤 3人, 常勤換算	11.5人

（２）建物概要

建物構造	(木造)造り		
	2階建ての	1～2	階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000～20,000 円
敷 金	(有) (90,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (無) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,000 円	

（４）利用者の概要（平成21年1月6日現在）

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	2名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	7名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 79.8 歳	最低 73 歳	最高 92 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	聖ヶ丘病院 三恵病院 野村内科循環器科 いぶり腎泌尿器科クリニック さかた歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、北海道でも雪が少なく温暖な気候にめぐまれ、年間を通して過ごしやすい道南の伊達市に所在し、事業所周辺は住宅街となっている。また、専門科も含めた協力医療機関のほとんどが近くにあり、利用者の健康管理においても安心できる環境となっている。開設より今年で7年目を迎え、事業所内のしつらえや調度品などがとても落ち着いており、家庭的な雰囲気となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	運営推進会議で出た意見について、全職員に周知し、話し合う機会を設けてほしいとのことであったが、具体的な実施には至っていない。避難訓練については、夜間を想定した訓練を実施している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	運営者より各評価の意義について毎年職員に対して説明をしており、スタッフ自身も評価の意義を理解しており、常に前向きに課題を設定し、サービスの質の確保、向上に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	運営推進会議は定期的に家族会に合わせ開催しており、事業所の考え方や評価の結果についての意見交換を行っているが、その内容について職員全員への周知が図られていない場合もあるので、会議で話し合った内容については、全体会議や回覧等により周知し、全職員が、運営推進会議の参加者の意見や要望や考え方を理解したうえで、事業所の取り組みに活かすことを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	利用開始時は、本人の生活のペースが安定するまでは、毎日、家族に対してその日の様子を報告し、家族の不安の軽減や、利用者の情報収集に努めている。また逐次、金銭管理の状況や生活の様子について報告を行っている。また苦情相談窓口の明示や苦情ボックスを設置し、家族等が意見や要望を伝えやすい工夫をし、意見や要望があった場合は速やかに、職員間での話し合いを行い、事業所の運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	玄関にベンチを置き、近隣住民が散歩時に自由に利用している。また自治会にはユニット単位で加入し、地域のイベントへも参加や協力をし、地域との交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と共につくり上げた利用者の尊厳を大切にした、事業所独自の「基本理念」「ケア理念」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や各ユニットに掲示し、またスタッフ全員が理念カードを携帯し、毎日の申し送りや、職員会議、研修会において、日常のケアの方向性が、理念に基づいているか常に確認がし、ケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	玄関にベンチを置き、近隣住民が散歩時に自由に利用している。また自治会にはユニット単位で加入し、地域のイベントへの参加や協力をし、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者より各評価の意義について毎年スタッフに対して説明をしており、スタッフ自身も評価の意義を理解しており、常に前向きに課題を設定しサービスの質の確保、向上に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に家族会に合わせ開催しており、事業所の考え方や評価の結果についての意見交換を行っているが、その内容について職員全員への周知が図られていない場合もみられる。	○	会議で話し合った内容については、全体会議や回覧等により周知し、全スタッフが、運営推進会議に参加された方の意見や要望や考え方を理解した上で、事業所の取り組みに活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に広報誌を届け事業所の近況報告を行うなど、市町村担当者とは円滑な連携を取りながら事業所運営が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用開始時は、本人の生活のペースが安定するまでは、毎日、家族に対してその日の様子を報告し、家族の不安の軽減や、利用者の情報収集に努めている。また逐次、金銭管理の状況や生活の様子について報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の明示や苦情ボックスを設置し、家族等が意見や要望を伝えやすい工夫をしている。意見や要望があった場合は速やかにスタッフ間での話し合いを行い、事業所の運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は日ごろより、他のユニットの利用者ともコミュニケーションを図り、ユニットが変わった場合でもダメージを少なくする配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に事業所内での研修を実施しているとともに、定期的開催される外部の研修会にも積極的に職員を参加させ、人材育成に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は北海道や地域のグループホーム協議会において積極的な関わりをもち、同業者と交流する機会を設けている。研修会の開催や情報交換を行い、サービスの質の向上に力をいれている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は事前の見学や数日間の体験利用ができる。また、利用開始後、生活が落ち着くまでは、毎日電話にて家族との情報交換を行い、事業所での生活にスムーズに馴染める為の配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が職員と一緒に食事の支度や、掃除の手伝いをするなど、役割を持って、一緒に支えあいながら過ごす工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から、利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣や好みについての情報を収集して、現在の生活に活かす支援方法を職員間で常に検討しながら支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を取り入れ、アセスメントに基づいた具体的な目標を掲げ、職員間で話し合いながら、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ユニット会議等において毎月、サービスの提供状況を確認している。本人や家族の要望や医師の意見に沿った、介護計画の見直しを行い、現状に即したサービスを提供している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じ特別な外出の支援等、本人や家族の希望に応じた柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携もスムーズに取れており、協力医療機関以外の利用者のかかりつけ医の医療機関への受診支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の方針についての指針を作成し、利用者の状況の変化に応じて家族と話し合い、意思の確認を行っているが、事業所での対応できることと、家族の希望が合わないケースがある。	○	利用開始時等、できるだけ早い段階で、本人や家族と重度化した場合や終末期のあり方について話し合い、事業所での対応についての十分な説明を行うなど、理解を得ることが求められる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日ごろより個人の尊厳を尊重した言葉かけや対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など利用者のペースや希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	和やかな雰囲気の中で、利用者とスタッフが会話を楽しみながら、同じ食卓で食事を摂っている。また食事の準備や後片付けについても、利用者が協力しながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの利用者のペースや希望に沿った支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の生活歴や職歴を把握することに努めており、その中で利用者ができる行為、食事の準備や後片付け、縫い物、掃除等を考えて役割づくりに結び付けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	美容室や買い物、ドライブなど、可能な限り外出機会を設けて、利用者が戸外に出かける支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等に鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間想定を含めた避難訓練を、消防職員の協力を得て実施している。また日ごろより、地域の方の協力も得られるよう働きかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時間や食事の形態など、利用者一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた配慮を行い、栄養バランスの取れた食事提供に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾品や写真を飾ったり、落ち着いた雰囲気のソファや家具を置き、居心地の良いしつらえづくりに取り組んでいる。不快な音や臭いは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたベッドや家具やカーテンを持ち込んで、利用者それぞれの個性に合わせた、その人らしい居住空間をつくって居心地良く暮らせる状態となっている。		

※  は、重点項目。